

平成17年度

総合健康診査結果がまとまる

平成17年度の総合健康診査は、5月23日から6月3日までの10日間、「いちばん館」で行いました。

受診者数

受診者は、結核検診1,763人、基本健康診査1,713人、胃がん検診981人、大腸がん検診673人でした。

今回の検診は、結核予防法の改正により結核検診対象年齢が65歳以上になったことや、総合健康診査の対象年齢が40歳以上になったことなどから、受診者数は若干減っているものの、対象年齢から見ると昨年同様の受診数でした。

受診結果

受診結果を見ると、基本健康診査では、通院継続22%、要精密検査37%でした。

通院継続の内訳は、高血圧の方が高い傾向にあります。一方、要精密検査では、働き盛りの男性に耐糖能異常（糖尿病）脂質代謝異常（高中性脂肪、高コレステロール）が目立ちます。

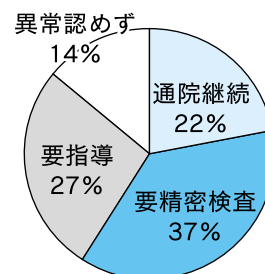
検診は、受けるだけでは何も改善されません。自分の結果と生活を重ね合わせながら、より良い人生を送るためにもう一度食生活の改善を図って下さい。

がん検診では、胃がん検診136人、大腸がん検診89人、肺野部がん検診8人が、要精密検査と判定されています。必ず医療機関にて精密検査を受けて下さい。

総合健康診査は、自分の体の科学的なデータです。上手に生かして健康で楽しい毎日を送りましょう。



基本健康診査結果内訳



日本脳炎ワクチンの 予防接種について

このたび、国から県を通じて「日本脳炎の積極的な勧奨は行わないように」との通知がありました。これにより、村では6～7月に予定していた小・中学校での予防接種を中止いたしました。

日本脳炎Q&A

Q：日本脳炎とは、どのような病気ですか？

A：日本脳炎ウイルス感染によって起こる中枢神経（脳や脊髄など）の疾患です。人から人への感染はなく、ウイルスが体内で増殖したブタなどの動物を刺したコガタアカイエカ（水田等に発生する蚊の一種）などが、その後人に刺すことによって感染します。東アジア、南アジアにかけて広く分布する病気です。

Q：このたび、日本脳炎ワクチンの積極的な勧奨を差し控えた理由は何ですか？

A：現在の日本脳炎ワクチンと、それを接種した後の重症ADEM発生との因果関係があるとの判断が下されたことから、現時点ではより慎重を期するためです。

ADEM：急性散在性脳脊髄炎

Q：今回の措置により、日本脳炎が流行することはありませんか？

A：日本脳炎の感染源は日本脳炎ウイルスを持った蚊ですが、この蚊に刺されたからといって、必ずしも発病するものではありません。日本では、予防接種の普及や蚊のウイルス保有率の減少などにより、患者数が1970年代以降著しく減少しています。そのため、多くの地域では、予防接種を行わなくても直ちに流行する機会が著しく少ないと考えられます。また、すでに予防接種を受けた年齢層は、ある程度の免疫を持っていると考えられます。

ただし、一般的に戸外へ出かける時には、念のため長袖、長ズボンを身につけるなど、ウイルスを持った蚊に刺されないよう注意することをお勧めします。